

子どもと教育・文化を守る

大阪府民会議「ユース

子ども笑顔輝く大阪に

学習交流集会

9月18日(土)に「子育てと教育を考える学習交流集会」を行いました。教育文化府民会議の構成団体や地域子育てネットなどから60人が参加して、橋下府政の下での教育・子育ての実態、橋下「改革」や「地域主権改革」のねらいや本質を学び合い、地域での取り組みの交流を行いました。

市民合唱団「ピースコール」が仲間や子どもの気持ちを作詞、作曲した3曲でオープニングを飾ってくれました。



その後、「橋下府政 今後 子育て 教育―地域主権改革―」というテー

マで田中康寛大教組委員長が講師となり学習をしました。

今の子どもと学校の現状、

新学習指導要領による算数教科書の子どもの発達段階を無視した内容の紹介から始まり、

事務局 大阪教職員組合書記局内
TEL 06・6768・2330
FAX 06・6768・2239
発行 2010年9月24日

NO. 1

メールアドレス
daikyoso@
daikyoso.jp

橋下「教育こわし」のねらいと本質を、公教育への責任放棄であり、「教育日本」といながら「切捨て教育日本」にしている実態を具体的な大阪の教育施策や教育条件を示しながら明らかにしました。また学力テスト中心、競争中心の選別教育や数値目標の押し付けによる強権的な管理教育を進めていることを指摘し、「教育の出発点は子どもであり、特定のワクにはめようとする教育は必ず破たんする。」と批判しました。

また民主党政権の「新成長戦略」は教育政策を経済政策に全く従属させるものとして「強い人材」を実現」「新し

い公共」型学校の創出」という政策や、公的保障の原則を解体し、子育て・教育を商品化し、もつけの対象とする「地域主権改革」のねらいと本質を豊富な資料をもとに明らかにしました。民主党政権や橋下教育「改革」がねらうものは公教育や学校が何のためにあるのかという教育を受ける権利そのものを根底から覆すとしてもないものであり、¹今こそ、子どもの声を聞



¹ 調子も悪く、子どもを虐待する事例も増加している。また、教育の現場では、子どもを「商品」として扱う傾向が強まっている。このように、教育の現場では、子どもを「商品」として扱う傾向が強まっている。このように、教育の現場では、子どもを「商品」として扱う傾向が強まっている。

、小中学

校 小林 優、新学習

指導要領による授業時数と教育内容の大幅な増加で、つめこみと授業の進め方が早くなっていること、全国学力テストの結果公表で習熟度別学習や学テ対策の授業など、学校が人格完成から点取り競争の場に変質させられようとしている実態などを報告し、管理と競争主義の教育を改め、子どもたちの生活、意欲、願いを大切にしたいと授業作りが求められていると発言しました。また橋下知事が準備をすすめている教職員の人事権移譲は、首長が人事権をにぎって教育支配をするねらいがあることを知事自身が語る言葉で明らかにし、当該地域との連絡や学習会を行い、府民との共同をすすめていくと述べました。

高校 米山幸治

橋下府政の高校政策は、「教育力向上プラン」(09年・1月)で、進学指導特色校10校、教育センター附属研究学校など多様化・特色づくりの再編整備を行い、「財政再建プログラム」(08年6月)による私学経常費助成の削減で私立高校の授業料値上げの影響により公立高校への受験が殺到し、平均3人に1人が不合格になる事態が起こったこと、また教育予算の削減で学校の電気を消す、修学旅行のときの自己負担、教務事務補助員削減により実験実習や図書館開設が減る、教職員の大幅な給与カットなどで先生が来ないという「教育に穴があく」事態が起こるなど教育活動に深刻な影響が出ていることを報告しました。教育無償化のいっ

そのの推進と全日制の入学枠拡大、望ましい高校教育や高

校入試制度のあり方について議論をしていくことを発言しました。



私学 村井毅史

私立高校は4月から年収350万円以下の家庭で授業料は55万円までの無償化が始まったが、「財政再建プログラム」で私学経常費助成の削減、「財政構造改革プラン」でも削減の継続を打ち出していることを述べ、橋下知事は私学無償化を広げる財源として、私立小中学校の経常費削減など私学助成全体を見直そうと

しており、私立小中学校の経常費削減・授業料値上げは高校の授業料値上げにもつながり、無償化により学費の値上げの事態が起こることや、私学の無償化により公立高校と生徒の獲得競争をさせようとしていることを批判し、府会議員への要請行動、府庁での宣伝、包囲行動などの取り組みを報告しました。

保育現場 岩狭 匡

志、府内初となる株²

式会社による認可保育所開設をめぐり八尾での運動を報告しました。過去(08年)に関東で株式会社が一夜にして倒産撤退して380人もの子どもたちが行き場を失うという事態が起こったことから、企業など安定的でないものがない子どもの保育分野に入っていくことへの反対運動や、また、今年6月に政府が打ち出した

「子ども・子育て新システム」が保育・幼稚園分野を市場化し、企業がどんどん入ってくることでできるしくみになっており、「直接契約」で利用者がサービスを見て選んでいくようになる事態が起ることを指摘しました。来年1月の国会に法案を提出、2013年から本格実施されようとしているが、法案を出させない運動を秋から年末にかけて取り組んでいきたいと発言しました。



保護者 松原三希子

就学援助率が高く、一人親家

庭の子どもが多いことや子ども3人で生活しているという事例など、保護者のネグレクト（育児放棄）や家庭内暴力など子どもへの貧困や困難な生活実態を発言しました。先生と親がいっしょになり、子どもがにこやかに、親が安心して教育を大阪で発展させていってほしいと期待を表明されました。

討論・交流では、20年前に地域の団体がいっしょになり結成した「**枚方子会議**

の活動の報告がされました。10年前には、小中統廃合の運動を地域といっしょに取り組み、それ以降は統廃合をストップさせてきており、地域と結びついてすすめることが大事であると強調。また「枚方の教育を語り合う父母・市民・教職員のつどい」を10年前にスタートさせ、全体会

や分科会に毎回約200名が参加。今の課題をとみに考え、取り組みの交流や協力を行なっており、PTAとのつながりを強化していきたいと発言しました。

「大阪教育文化」

からは、憲法の精神、子どもの権利条約にもとづいて運動をすすめていく大事さを述べ、教文センターは、20年間で3回「大阪の子ども調査」を実施し、第3回目の調査結果

をまとめて本にしたが、子どもが人間らしく生きようとしていることがデータで出ているこの本の普及版を作成中であることを紹介し、子どもを総体として、何を考え、期待しているのか、子どもを見直すことの大事さを強調しました。

茨木 学童保育連絡協議会

からは、「放課後子どもプラ

ン」の実施で茨木の学童保育がいろいろな制約、学童のおやつが不平等だとして禁止になったり、校区外への外出禁止など、豊かな放課後が狭められてきたことや、指導員の働き方の変更で、3年ごとの採用試験の導入、任期付き制度導入で3年ごとに指導員が変わってしまうという学童保育の実態が報告されました。

「交野教育 子育て」

「からは、1998年³

に小中高の教組、市職労、学保協、新婦人、交野歌う会、保育連、作業所などが集まって発足し、今までに講演会、高校生と語る会、自然体験ツアー、交野独自のアンケートなどの活動を行ない、今は5月か6月の総会で講演会、夏休みにキッズコンサート、秋に勉強会や懇談会、冬に映画会と、定期的に行っている多彩

な活動が報告されました。

最後に松村忠臣DCI代表

委員がシンポジウムのまとめ

として、このままでは大阪で

教育は成り立つのか、暮らし

が成り立つのか、その実態を

明らかにして政策とどうい

う関係があるのか学習を深める

ことが一番大事であると強調。

民主党の教育政策の「強い人

材」は自民党すら使わなかつ

た言葉で、「強い人材」を前提

にした教育は必ず競争を激化

させると指摘しました。また

地域主権改革は、住民自治、

住民が主人公という憲法の思

想が全くないこと、国と自治

体の役割を分断し、国の予算

の削減を自治体に負わせ、特

区にしてやりたいことをやら

せるというひどい中身である

ことを厳しく批判し、今の生

活実態、子ども・教育の実態

と述べました。さらに競争の

教育では人間は育たないこと

は世界では実証済みで、日本

の教育に対して厳しい勧告が

何度も繰り返し出されている

ことを指摘し、競争の教育は

勉強が出来る子どもも本当の

学力は身につかないものであ

り、競争の教育が子どもの人

間形成にどんな問題、ゆがみ

をもたらせているか、現場か

ら告発し、制度の中でも地域

と協力して学校が作られれば、

子どもは成長・発達するとい

うことを基本において参加と

共同の学校づくりをすすめて

いくことの大事さを、高校生

が国連（シユネーブ）に参加

して感動的な意見表明を行な

ったという教育の可能性にも

触れながら述べました。

そして今ほど教育と福祉が

結合すべき時代はなく、憲法

育権を結合した取り組みが保

育にも教育にも求められてお

り、憲法、子どもの権利条約

が日本の新自由主義政策を批

判し、子育て、保育、教育を

資本の道具にするなど勧告し

ていることに確信を持ち、つ

ながり、共同を広げて取り組

んでいこうとよびかけました。

（感想文より抜粋）

・交流会で発言された教職

員・団体・地域ネットワー

クの方々はすぐご苦労なさっ

ていて、それでも子どもを守

るためたかっていることを

知り、教育や子どもを思う熱

い気持ちに感動しました。こ

の人脉がある限り、都合のい

い従順な人材作りの教育は阻

止できるだろうと思いました。

（保護者）

・どの分野・層にも国と橋下

府政の攻撃が及んでいて子ど

も・親・教職員が苦しめられ

ていることが浮き彫りになり

ました。（中略）「府民会議」

の提起のもとで交野のような

しなやかなネットワークを各

地域で発展させることが今こ

そ大切だと思えます。

（ピースコール）

（編集後記）

府民会議のニュースを月一

回の予定で発行することにな

りました。字が多くて読

みにくいですが、今後も⁴

っと読みやすいニュースにし

ていくため、みなさんからア

ドバイスやアイデアをお願い

します。なお、今回はニュー

ス原稿が集まる前でしたので、

学習交流集会の内容を独断で

まとめました。今後、各団体

や地域の活動の様子、行事な

どを紹介していきますので原

稿にしてメールかFAXで事

務局に送って下さい。（S）